

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
相武台地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月

相武台地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

| | | |
|----|--------------|-----|
| 1 | 都市計画・都市整備 | P 1 |
| 2 | 道路・交通 | P 2 |
| 3 | 住環境・生活環境 | P 3 |
| 4 | 【重点】自然・環境 | P 3 |
| 5 | 産業・観光・商店街 | P 4 |
| 6 | 安全・安心 | P 5 |
| 7 | 健康・医療・福祉 | P 6 |
| 8 | 教育・子育て | P 6 |
| 9 | 【重点】地域コミュニティ | P 7 |
| 10 | 基地 | P 8 |
| | 会議経過 | P 9 |

1 都市計画・都市整備

現状と課題

相武台地区の西側では、新たな拠点の形成を目指し、麻溝台・新磯野地区整備推進事業（約148ha）の予定区域となっており、先行して平成26年度より第一整備地区の土地区画整理事業（約38ha）が行われています。

当該地区周辺道路の整備や産業・生活支援系施設の立地の促進が図られるなど、周辺地区の活性化が期待されている一方で、整備地区周辺道路への工事用大型車の通行や整備後の交通量増加などの対策が課題となっています。

対応方策

- ・周辺道路の一方通行や大型車両の進入禁止などの交通規制を検討する（市民・行政）
- ・麻溝台・新磯野第一整備地区までの移動手段として、コミュニティバスの導入を検討する（市民・行政）

2 道路・交通

現状と課題

相武台地区には、狭い道路が多く、特に市道相武台47号は道幅が狭いことに加え、主要道路からの抜け道として利用され、相当の交通量になっており、安全に歩行できるよう幅員の確保や歩道の整備が求められています。

また、相武台地区から女子美術大学や相模原ギオンスタジアム、市役所方面へ直接アクセスできる公共交通手段が少ないことが課題となっています。

対応方策

- ・ キャンプ座間の東側道路（ゴルフ場周辺外周道路）を返還してもらい、交通量の分散を図る（行政）
- ・ 市道相武台47号などの道路拡幅整備を行い、渋滞の緩和を図る（行政）
- ・ 市道相武台47号の周辺道路の一方通行への見直しや大型車両の進入禁止などの交通規制を検討する（市民・行政）
- ・ 多方面への交通手段として、近隣市の事例を参考にコミュニティバスの導入を検討する（市民・行政）



市道相武台 47 号

3 住環境・生活環境

現状と課題

相武台地区では、人口減少などの影響により、団地を含めた空き家（部屋）が増えてきており、管理が不十分であることによる景観や防犯上の問題が生じています。

また、焼却施設からの悪臭が漂うことがあり、対策が求められています。

対応方策

- ・ 空き家（部屋）の家賃の一部補助を行う（行政）
- ・ リフォーム、リノベーションにより魅力を高め、空き家（部屋）の解消を図る（民間）
- ・ 不動産業者や行政と連携し、空き家の対応を検討する（市民・行政・民間）
- ・ 悪臭などの通報を受けた場合に、市が早急に焼却施設の立入検査を実施するなどの監視体制の強化を図る（行政）

4 【重点】自然・環境

現状と課題

相武台地区には、公園が多くありますが、どこも同じような公園で特色がなく、魅力が乏しいため、あまり活用されていないことが課題となっています。

他地区からも様々な世代に集まってもらえるような、特色ある公園づくりが必要となっています。

対応方策

公園のテーマを考えるコンテストの開催など、学生や若年層を含めた幅広い世代の地域住民の意見を聞くための場を設け、提案された内容（遊具や設備など）を参考に特色がある公園の整備を検討する（市民・行政）

公園内にランニングコースや懸垂などができる健康遊器具の設置を検討する（市民・行政）

5 産業・観光・商店街

現状と課題

相武台地区では、身近な商店街で買い物をする人が少なくなっていることに加え、近隣にショッピングモールができたことで、商店街に人が集まらず、地域に活気が無くなってきていることが課題となっています。

対応方策

- ・ 地域の人が、どのような消費生活や買い物のスタイルを求めているのか需要調査を実施し、商店街の魅力を創出する方策を検討する（市民・民間・行政）
- ・ 商店街に駐車場を整備する（民間）



6 安全・安心

現状と課題

相武台地区では、日頃から防災訓練を実施するなど、地域の防災への意識は高まっていますが、住民の中には、「自分だけは大丈夫」と考えている人がいるなど個人の認識に差があることが課題となっています。

防犯灯がLED化されたことで、道が明るくなる等、防犯対策が図られていますが、高齢者を狙った振り込め詐欺や不審者などに対する更なる防犯対策が必要となっています。

また、県内でも相模原市南区は自転車事故が多く、「自転車交通事故多発地域」に指定されています。スマートフォンの利用やイヤホンで音楽を聴きながら自転車走行するなど、交通マナーの低下が課題となっています。

対応方策

- ・ 防災に関する詳細な地域別の情報を開示して、身近な危険を認識してもらう（行政）
- ・ 散歩などを登下校時間に合わせて行い、子どもの見守りを行う（市民）
- ・ 自転車事故危険箇所をマップ等で周知するとともに、ルールを再認識させる（市民・行政）
- ・ 自転車事故を起こした場合に、多額の損害賠償金を請求される恐れがあることを、子どもも含め住民に周知する（市民・行政）
- ・ 振り込め詐欺の被害にあったことを恥ずかしいと考え、警察に届出をしない人がいるため、まずは正確な実態把握のために届出ができる環境を整える（市民・行政・その他（警察））

7 健康・医療・福祉

現状と課題

相武台地区は、高齢者の割合が高く、2065年には高齢化率が48.6%と地区の約半数が高齢者になることが見込まれています。

高齢者は、複数の医療機関を受診しているケースが多い傾向にあり、必ずしも近くに医療機関があるわけではなく通院することが負担となっているため、今後、地域の身近な場所で、健康面の相談ができる窓口の必要性が高まっています。

また、車を所有していない高齢者などの病院までの移動手段の確保も求められています。

対応方策

- ・相模原看護専門学校に学生が単位を取得できる制度の構築を働きかけ、健康面の簡易相談窓口などを担ってもらう（行政・その他（教育機関））
- ・地域に潜在する医療に携わっていた人を発掘し、住民の健康増進や予防に役立てる（市民・行政）
- ・利用者の病院までの送迎システムの構築について、病院単位で検討する（行政・その他（医療機関））

8 教育・子育て

現状と課題

相武台地区では、子どもたちが安心して成長できる居場所づくりや子どもたちを地域で見守る体制づくりに取り組んでいますが、人材の確保に苦慮しており、継続的な活動に課題があります。

対応方策

- ・無料の学習塾やこども食堂など地域の有志で実施している活動を、地域としてバックアップする体制をつくる（市民）
- ・地域の放送設備を活用し、登下校時に見守りの呼びかけを行うなど、地域が一体となって見守りに取り組む（市民・行政）
- ・日頃の声掛けや挨拶で見守りを充実させ、互いに顔見知りとなる（市民）

9 【重点】地域コミュニティ

現状と課題

相武台地区では、まちづくりセンター・公民館・高齢者支援センター・こどもセンター・相模原看護専門学校などを含めて一体となった地域の拠点「そあら」とし、地域への愛着心を育てているほか、「ふるさとまつり」や地域イベントとして定着しつつある「相武台芸術祭」などの地域活動への参加者が増えており、地域の結束が強くなっています。

一方、近年、近隣との付き合いが希薄になってきており、災害時の安否確認などに課題があります。

また、人が自然と集まる機会の創出や世代間の交流など、更なる地域活動の活性化が必要となっています。

対応方策

世代間の交流を目的に、様々な世代の人が気軽に立ち寄れる場所として、地域の拠点である「そあら」を活用し、イベントなどを開催する（市民・行政）
親が子どもを地域活動に連れて行くなど、小さい頃から地域に関われるような環境づくりを行う（市民）

- ・定期的なラジオ体操など、地域の人が集まる機会（イベント）を創出する（市民）



10 基地

現状と課題

相武台地区には、西側にキャンプ座間が隣接しており、これまでも返還を要望していますが、実現には至っていません。

また、キャンプ座間（在日米陸軍キャンプ座間ゴルフコース）については、広域避難場所に指定されています。災害時に、市からの要請に基づいて災害の状況等を勘案した上で、米軍が受け入れの決定を行うという段取りになっており、実際にキャンプ座間への避難が可能であるか不安があります。

対応方策

- ・相模総合補給廠だけではなく、キャンプ座間の返還についても強く要望する（行政）
- ・近隣の自治会（会長や役員）の要請によって、避難場所として開放してもらえるよう検討する（市民・行政）
- ・キャンプ座間の避難場所について、2段階に避難エリアを設定し、1段階目のエリアについては、災害時は即座に立ち入れるようにする（行政）
- ・災害時に市職員が立ち会えるように、付近に居住している市職員などが対応を図れる体制をつくる（行政）



会議経過

| 日程 | 会議内容 | 委員出席数 |
|----------------|--------------------------------|-------|
| 平成30年 5月30日 | 第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出 | 18名 |
| 6月26日 | 第2回 ・課題と対応方策検討 | 16名 |
| 7月31日 | 第3回 ・課題と対応方策検討 | 18名 |
| 8月28日 | 第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討 | 17名 |
| 9月27日 | 第5回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討 | 17名 |

相武台地区では、グループの進行役として、南区若者参加プロジェクト実行委員会の委員が参加しました。

南区若者参加プロジェクト実行委員会...若い世代がまちづくりへ参画しやすい方法を、若者自らが企画・実行することを目的にしている団体です。